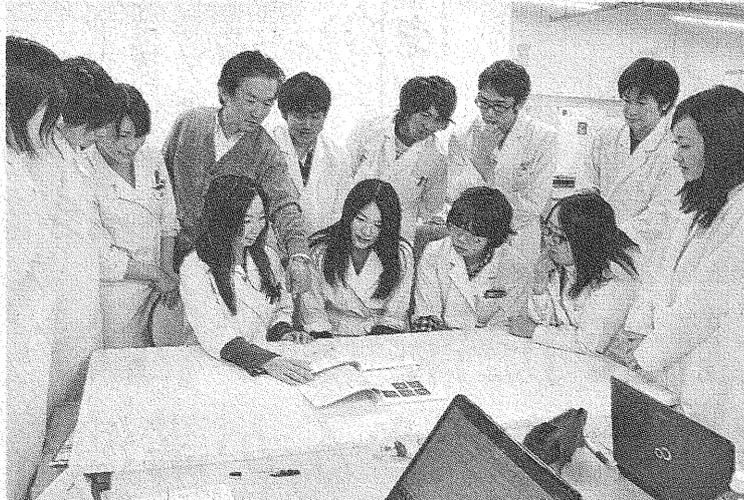




# 最先端実習 学生に力



岩手医大薬学部

## 薬物送達学を導入

### 学会も評価、雑誌掲載

矢巾町の岩手医大薬学部は薬の体内での動きを制御する創剤学の実習に、薬物送達学(DDS)と呼ばれる最先端の研究領域を導入している。学生が実際に研究し、結果を明らかにする特色ある実習で、卵黄からカプセルのような薬物輸送体を作った成果は日本薬学会発行の「薬学雑誌」に掲載された。薬剤師養成のための薬学教育が6年に延長され、高い資質を持つ人材育成が求められる中、学生の考える力や物事を多面的に捉える力などの向上につなげている。

同学部が創剤学実習 送体で、薬物を患部に行っているのは、D 運ぶカプセルのような「リポソーム」の研究。同学部1期生(現5年生)が3年生の時に行った実習では、リポソームを卵黄から

調製できるか検討し、可能であることを証明した。

その成果を担当教員らが検証し、論文として提出。日本薬学会は、安価な卵黄でリポソームを作れることを明らかにした点と、学生に作成技術を体験させ、性質を理解させた実習内容を評価し、約130年の歴史がある薬学雑誌に掲載した。

一般的に薬学部で行う実習は、結果が分かっている内容が多いが、リポソーム研究の実習は学生自ら考え、結果を導き出す過程を経験する。鈴木駿人さん(5年)は「早い時期にこの実習を経験し、いろいろな方向性や可能性

があると知った」と振り返る。

卒業研究としてリポソームを調べている杉悠華子さん(同)は「自分たちが結果を出すことに感動があった。実習がきっかけで研究を続けている」と語る。

薬学部創剤学講座の佐塚泰之教授は「新しいことを考え、気付き、吸収することができると意義を語り、杉山育美助教は「研究の楽しさを感じてほしい。学生同士の刺激にもなるので継続していきたい」と意欲を示す。

#### 圭陵会FAXニュース

圭陵会ホームページよりPDF形式でダウンロード頂けます。  
圭陵会ホームページアドレス <http://www.keiryokai.gr.jp>